

# 消費者ネットワーク

2007年3月1日

第117号

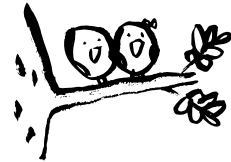
全国消費者団体連絡会  
発行責任者 神田敏子

TEL : 03-5216-6024

FAX : 03-5216-6036



消団連とこのごろ



2月6日、東武東上線池袋発19時24分、急行小川町行き電車は、発車後5分ほどで、長い警笛とともに急停車をした。調度ときわ台駅ホームに差し掛かっていた。停車と同時に、人身事故の発生が車内に告げられ、騒然となった。

救助のためパンタグラフが下ろされ、車内は暗くなった。幸い、ときわ台駅の明かりが入ってきていたので真っ暗ではなかったが、それでも隣の人と肩が触れ合うくらい混んでいる車内で長時間耐えるのは、相当な苦痛だった。駅ホームでは、振替え輸送を案内する駅員の声が、うるさいくらい繰り返されている。一方車内では、人身事故が発生したこと以外、何も情報提供されない。車内は全く放り出された状態だった。気分の悪い人が出ても、迅速な対応ができない。せめてドアを開けてもらえれば、かなり気分が楽になると思うのだが、どんなに訴えても開けてくれない。電車の一部がホームから外れているからだという。どんなマニュアルがあるのか知らないが、乗客無視も甚だしい。

ようやく動きだしたものの、「急行」が「各駅停車」に変更されてしまった。そのため、その後も大変な思いが続いた。沢山の駅に止まり、乗る一方になった車内は、異常なすし詰め状態になった。足首とひざが逆にねじれ、つり革につかまった左腕は伸びに伸び、腰には回りの人の体重がかかる、そして背中が弓なり状態。それでも乗ろうとする人が沢山いるので、停車時間が長くなり、苦しい時間も長くなった。こうした状態になることは容易に想像がつくと思うのだが、いったいどんな理由で「各駅停車」に変更したのだろうか。その判断の仕方にも疑問を感じる。

いずれにしても、緊急時対応についての訓練がなされていないようだ。事故にあった人の救出が第一であることは言うまでもない。しかし乗客のことも少しは考えるべきではないか。駅員が足りないのかもしれないが、それならなおのこと訓練はしっかりやっておくべきだろう。乗客には子どもも高齢者もいた。きっと具合の悪い人もいただろう。単に機械的にマニュアルに従うだけでなく、ケースに応じて判断や行動ができるようにしておいて欲しいものだ。

事故の様子は、帰宅後のTVニュースではじめて知った。

## もくじ

|   |         |
|---|---------|
| 消団連とこのごろ  | ・・・p.1  |
| 全国消団連 PLオンブズ会議が「一連のガス機器事故に関する要望書」を事業者団体に提出            | ・・・p.2  |
| 消費者保護の視点で、割賦販売法、特定商取引法の改正論議へ                          | ・・・p.3  |
| 食品安全委員会委員と消団連の食のグループで懇談会をおこないました。                     | ・・・p.4  |
| 独禁法基本問題懇談会／地上デジタル放送                                   | ・・・p.5  |
| 消費者機構日本110番報告   | ・・・p.6  |
| 「BSE発生から5年 今あらためてBSEをふりかえる」セミナーを開催                    | ・・・p.7  |
| ISO(国際標準化機構) /SR(社会的責任)ワーキンググループの総会が、オーストラリアで開催されました。 | ・・・p.9  |
| 会員団体・活動紹介   | ・・・p.10 |
| お知らせ・編集後記   | ・・・p.12 |